



佐藤 榮一氏からのご意見

ユニバーサルデザイン

- すこやか食生活協会では、高齢者や障がい者の方々に、食生活に関する様々な情報を印刷物、CD、ホームページなどで提供しています。その際、特に高齢者や障がい者が使いやすい、ユニバーサルデザインの製品の紹介や提案には力を入れています。
- 私たちが提案して乳業各社に採用していただいたのが、牛乳の紙パックの切り欠きです。1リットルや500ミリリットルの紙パックの上部にへこんだ所があり、視覚障がい者の方でも100%成分無調整の牛乳だと分かるようになっていました。これは、目の不自由な当協会の創業者が発案し、提案して実現したものです。
- 高齢者や障がい者にとって使いやすい製品のポイントは、①表示の見やすさ、②開けやすさ（開封性）、③持ちやすさ、④分別廃棄のためのラベルの剥がしやすさの4つが挙げられます。伊藤園の製品は、これらについてよく配慮された製品が多く、ユニバーサルデザインの観点からの工夫がされています。今後、この4つのポイントに沿って、さらに改善していただければと思います。

食育とお茶の健康価値

- 食育の視点からは、「食事バランスガイド」のコマの軸に水とお茶が位置付けられています。お茶はカテキンなどを含み非常に機能性があります。お茶は健康に良いということ、伝統飲料や食文化の観点とともにもっとアピールされた方がいいのではないのでしょうか。

食料自給率向上と地域振興

- 最近、国産のものに対する消費者の信頼は大変高まっています。茶産地育成事業の取り組みは、食料自給率向上や耕作放棄地対策の面で大変評価できます。日本の農業は、次第に生産力が衰えてきて、住んでいる人が地域を離れていき過疎化が進み、耕作放棄地も増えていく、そんな流れを何とかしなければならないという課題があります。耕作放棄地を活用してお茶を育て、地域農業に貢献するという取り組みは大変良いと思います。地域の産業振興に役立つというCSRの観点も、販売製品の安全・安心や品質向上にもつながり、地域と企業双方の利益になります。これからも多くの地域でこのような取り組みを行うことができるのではないのでしょうか。



佐藤 榮一氏
財団法人すこやか食生活協会 理事長

伊藤園の対応

ユニバーサルデザイン

「自然・健康・安全・良いデザイン・おいしい」という5つの製品開発理念とお客様からの声を大切に製品開発をしています。①表示の見やすさ、②開けやすさ、③持ちやすさ、④ラベルの剥がしやすさについて、今後も改良を行っていきます。②の具体例を挙げますと、缶コーヒー製品のプルタブを、品質や密閉性を保ちながら開けやすく改良しました。これは、2011年10月下旬発売の新製品で、資材メーカーに働きかけて、当社が飲料業界で最初に導入しました。
(三宅・商品企画二部長)

お茶やにんじんの健康価値訴求について

お茶の健康価値訴求については、社外の研究者をお招きした「緑茶と健康フォーラム」を毎年実施しています。また野菜飲料の原料では一般的になんじんよりβ-カロテンの含有量が多く健康価値の高い、当社独自選定の「朱衣」が、2010年に「第5回野菜ソムリエサミット」のにんじんの生食および蒸し部門で1位を獲得しました。(笹谷)

茶産地育成事業

「お〜いお茶」の原料茶葉の品質と生産性の向上を目指して九州を中心に茶産地を広げています。産地育成には国内に約40万ヘクタールもあると言われる耕作放棄地も活用しておりますが、生産者の利益がなければ事業は成り立ちません。農家や産地の方々の利益も考えて推進しています。
(橋本・取締役副社長、生産本部長)

これからのマーケティングの課題

使いやすい容器等、製品開発を含めた高齢化対策をはじめ、これからの若者と高齢者の人口構成比率やターゲットを考慮してマーケティングを検討したいと思います。
(波岡・取締役、広告宣伝部長、販売促進部長)